

八峰白神ジオパーク

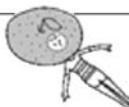
連載137回

事務局

八峰町産業振興課 ジオパーク推進係
0185(76)4605 FAX 0185(76)2203
HP <http://geopark.town.happo.lg.jp/>



白神の恵みに生きる



地域の人の話を聞いて、
大地と自然とのつながりを考えます

【駒踊りで子どもにかっこいい姿を見せたい】



話してくれた人

いせ はやと よねもり ともあき たかき りょうじ
左から伊勢隼人さん、米森智明さん、高木龍治さん
石川在住。駒踊りの現役の踊り手として活躍中。3人で協力してきのこ栽培をしている。また、Youtubeできのこを使ったレシピを楽しく紹介している。

レンチナス奥羽伊勢



●駒踊りの活動

駒踊りの活動はお盆の時がメインで、あとは依頼があれば披露しにいきます。子どもは、小学校3年生から始めて、お盆の他に小学校の学習発表会に向けて練習しています。子どもには石川郷土芸能保存会の上役の人が教えています。

大人の衣装と子どもの衣装は違いますが、大人の衣装はとても重いです。年を重ねて、大変になってしまっています。昔みたいに跳ねるのが難しくなっているし、ケガも怖いです。でも、いざやるとアドレナリンがでるし、拍手をもらえたときがとても嬉しいです。最近は自分の子どもが楽しみにしていて、かっこいいって言ってくれるのでやりがいがあります。

●世代を超えたつながりが面白い

子どもの頃は週に2回くらい練習していました。お盆になると段ボールで衣装を自作して、一緒に大人と踊っていた記憶があります。練習は結構厳しかったですね。飛んだり跳ねたりするから大変なんだけど、休んでやるなどか、最後までやれとか厳しく言われました。昔は誰でも駒踊りに参加できるわけではなかったみたいです。集落の中で選ばれた人しかできなくて。そういう世代の人に教えてもらったので、駒踊りに対する思いが強くて、よく怒られました。今は人が少ないし、踊り手を大事にしないといけないから、以前よりは優しく教えていると思います。

駒踊りや奴踊りがあるから、石川はみんなが集まる機会が多いし、団結力が強い部分があると思います。コロナになる前は色々な場所に行って、他の郷土芸能の人と交流したり、石川のPRをしていました。これからコロナが収まって、依頼が増えてきたらどんどん出ていきたいです。駒踊りは自分たち若い世代が踊っているけど、郷土芸能を観に来る人はお年寄りも多くて、それでとても喜んでくれるんです。そういった世代を超えた繋がりがいいなと思っています。

